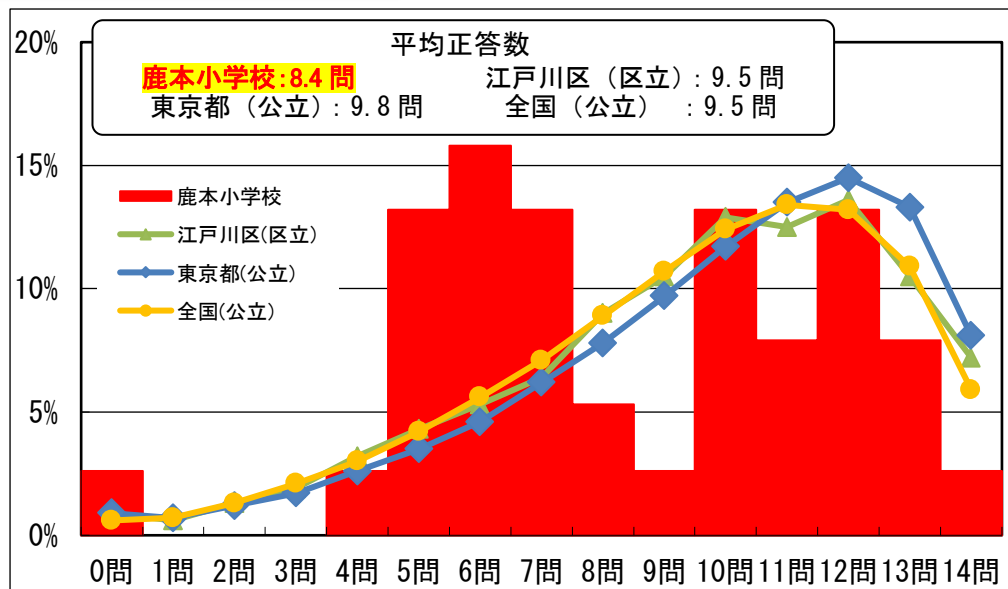


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 鹿本小学校

正 答 数 分 布



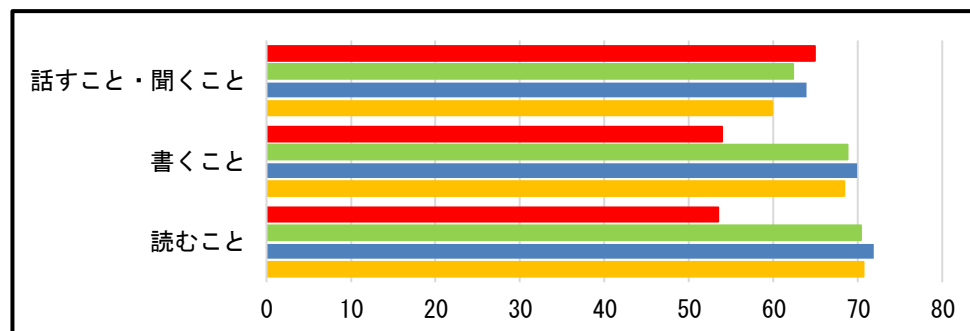
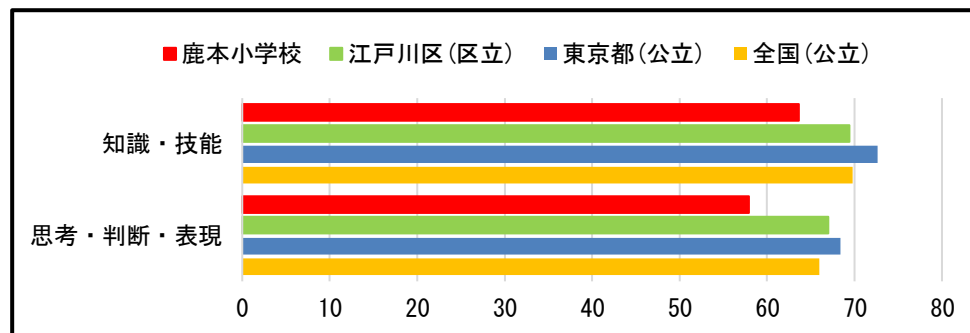
< 四分位における割合 (都全体の四分位による) >

上位 ← → 下位

国 語	A 層 12～14 問	B 層 10～11 問	C 層 8～9 問	D 層 0～7 問
鹿本小学校	23.7	21.0	7.9	47.4
江戸川区 (区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都 (公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国 (公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の 1/4、2/4、3/4 にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童を A、B、C、D 層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「 領 域 別 」 の 結 果



【平均正答率の差】

鹿本小学校	60%
江戸川区 (区立)	68%
東京都 (公立)	70%
全国 (公立)	67.7%
都との差	10 ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率の差は、東京都より 10 ポイント下回る結果となった。四分位における割合を見ると D 層が最も多い。また、領域別の結果を見ると話すこと・聞くことは 6 割を越えているが、書くこと・読むことについては、6 割を満たしていない。

今後の対策として、日々の新出漢字を反復練習し定着を図る。学校だけでなく家庭でも反復練習を行う。また、本を読む習慣をつけたり、言葉集めや語句の問題にも取り組んだりする活動を通して、書くこと・読むことの結果が 6 割を超えることを目指していく。